

由良川の中流部に位置する京都府の福知山市街地は、山地と由良川に挟まれた低平地に位置し、由良川の勾配が緩いため水害が起こりやすくなっています。

近年では、平成26年に市街地で内水が氾濫し、床上浸水2,029戸の被害を受けていますが、堤防が決壊した場合にはさらなる浸水被害の発生が想定されています。

福知山河川国道事務所では、ハザードマップでは分かりづらい洪水氾濫の時間的な進行を仮想体験できる「3次元洪水浸水VRシミュレーション」を開発しました。このシステムは、マイタイムライン作成などの啓発活動に活用されています。

福知山市街地の約0.25km<sup>2</sup>にて作成

### 1. 3次元モデルの構築

レーザー光で距離を測るLiDARセンサーと360度カメラの一体型機器で、福知山市街地の約0.25km<sup>2</sup>の範囲でモデルを構築。水害への備えが工夫された築140年の町屋を改修して整備されたNIPPON防災資産である福知山市治水記念館や、福知山市役所、福知山城、そして4か所の避難所が含まれています。治水記念館は建物の内部までモデル化しているそうです。

### 2. VRによる浸水状況の再現

堤防が決壊すると、想定されている速度で氾濫が拡大し、浸水が深くなるにつれて歩行速度が低下するなど、実際の水害で起こりうる現象が再現されています。ゲームコントローラーを操作することで前後左右に進むことができ、浸水した市街地の映像を身長に応じた目線の高さで見ながら、任意の場所から避難所を目指して移動します。行動不能になる前に避難所に到達すると「避難完了」と表示され、ゲーム感覚で避難を体験できる仕組みです。



福知山産業フェアでの体験会

### 3. VRシミュレーションの活用

3次元洪水浸水VRシミュレーションは、防災訓練や各種イベントで活用されています。体験者は「実際の浸水速度が想定より速かつたため、危機意識を持つた」「初めて浸水の恐怖を実感した」といった声が寄せられ、実際の水害体験に近い臨場感を提供していることがうかがえます。



治水記念館2階から見る浸水状況

VRシミュレーション操作画面(福知山城周辺)

【資料提供:福知山河川国道事務所】

本誌は、近畿の「道の駅」、一部の府県および公共施設などに配布しています。  
インターネット環境をお持ちの場合は、  
[https://kyokai-kinki.jp/archives/category/public\\_magazine](https://kyokai-kinki.jp/archives/category/public_magazine)においても最新号とバックナンバーをご覧になれます。  
誠に申し訳ございませんが、バックナンバーの配布は行っておりませんので、ご了承ください。



前号までの「排水機場訪問記」次のシリーズとして、「流域治水探訪」が始まりました。近畿管内で進められている「流域治水」について、「物事の実情や真相を探るために現場を訪れる=探訪」によって、一般の方々にも分かりやすいよう紹介していただきます。気候変動の影響により頻発・激甚化する水害に対処するためには、流域内のあらゆる関係者が力を合わせて協働して対応する「流域治水」が求められています。皆さんも身の回りの「流域治水」を考えてみませんか。

【担当:森川一郎、益倉克成、田中徹、和田桂子、鈴木里奈、服部龍雄、井川貴史、小柴梓】



## 水ものがたり

世界の川と水インフラ (17) ードナウ川中流域 (その2) ー

## 世界の水

水辺空間を生かした都市再生の事例  
~アジア:スリランカ。古代遺跡シーギリヤ~

## 水を訪ねて

豊かな水と美しい自然に恵まれた歴史と景観(前編)

## 京都の水文化(2014)

京都のシンボル「三条大橋」「四条大橋」  
~為政者にとっての橋の価値~

## 水と文学

桂川・宇治川・木津川、  
三川合流部の文学

## みんなの水辺

川は、誰にでも開かれた舞台  
~名張川から広がる、自然との出会いと学び~

## うおーたーねつと

朝鮮通信使と淀川の川御座船

関係者に聞く

## 流域治水探訪

新シリーズ「流域治水探訪」を始めます!



# 水が語るもの



表紙写真

大阪府大阪市『淀川』  
十三緊急用船着場から見た梅田の夜景

## 目次

- 3 水ものがたり
- 6 川シリーズ
- 10 世界の水
- 12 水を訪ねて
- 14 京都の水文化(その14)
- 18 水と文学
- 22 みんなの水辺
- 24 うおーたーねっと
- 26 流域治水探訪
- 28 トピックス

京都大学名誉教授  
(公財) 河川財団 研究フェロー  
池淵周一



## 世界の川と水インフラ(17)

—ドナウ川中流域(その2)—

水  
もの  
がたり

ブダペスト市内を流れるドナウ川

今号では、ドナウ川中流域の主要な支川と水インフラ施設を取り上げる。その位置や主要な都市は図-1を参照されたい。

チエコ、スロバキア領内からドナウ川に流入するモラヴァ川、ヴァーヴ川、フロン川にあるダム・堰

モラヴァ川は、流路長354km、流域面積26,660km<sup>2</sup>、年平均流量119m<sup>3</sup>/秒。流域の8割がチエコ領で、下流はチエコ、オーストリア、スロバキアの国境を形成している。上流の自然保護区内の小さな貯水池に立ち寄り、ブルノに入る。首都布拉ハに次ぐ第2の都市で人口は40万人ほど。石畳の狭い道を抜けた自由広場には中欧最大のゴチック様式の石塔、聖ヤコブ教会、パウロ大聖堂などが林立し、市内には路面電車が縦横に走っている。

モラヴァ川の上流、中流にはダムはないが、最大支流ディイエ川には



ノヴェ・ムリニダム(最下流)の湖面と古城

ノヴェ・ムリニダムとヴラノフダムがある。ディイエ川の支川イラヴァ川にもイラヴァダムがある。ノヴェ・ムリニダムは3つのダムが連続し、段階的に建設されたものである。最上流のダムが1978年につづられ、貯水容量1,218万m<sup>3</sup>。1980年に建設されたダムは貯水容量3,400万m<sup>3</sup>。1988年建設された5万m<sup>3</sup>で、いずれのダムも治水と灌漑が目的とか。ダム湖の水深はそれぞれ5m、6m、8mと浅いが湖面積は広大である。ダム間の水位差はほとんどなく、長大なダム堤体の中央部分には3、4基のスルースゲート式の洪水調節施設がある。

ヴァーヴ川は流路長402km、年平均流量161m<sup>3</sup>/秒、流域面積19,696km<sup>2</sup> (スロバキア最大)。ヴァーヴ川には10基ものダムがあるが、上流にあるオラヴァダム、最大オラヴァダムが最大規模のダムである。オラヴァダムは、1953年に建設された多目的ダムで、堤高40m、総

浮き上っていた。こうした水位低下は1998年、2003年、2000年、2005年、2008年、2010年、2012年、2014年、2016年、2018年、2020年、2022年、2024年、2026年、2028年、2030年、2032年、2034年、2036年、2038年、2040年、2042年、2044年、2046年、2048年、2050年、2052年、2054年、2056年、2058年、2060年、2062年、2064年、2066年、2068年、2070年、2072年、2074年、2076年、2078年、2080年、2082年、2084年、2086年、2088年、2090年、2092年、2094年、2096年、2098年、2100年、2102年、2104年、2106年、2108年、2110年、2112年、2114年、2116年、2118年、2120年、2122年、2124年、2126年、2128年、2130年、2132年、2134年、2136年、2138年、2140年、2142年、2144年、2146年、2148年、2150年、2152年、2154年、2156年、2158年、2160年、2162年、2164年、2166年、2168年、2170年、2172年、2174年、2176年、2178年、2180年、2182年、2184年、2186年、2188年、2190年、2192年、2194年、2196年、2198年、2200年、2202年、2204年、2206年、2208年、2210年、2212年、2214年、2216年、2218年、2220年、2222年、2224年、2226年、2228年、2230年、2232年、2234年、2236年、2238年、2240年、2242年、2244年、2246年、2248年、2250年、2252年、2254年、2256年、2258年、2260年、2262年、2264年、2266年、2268年、2270年、2272年、2274年、2276年、2278年、2280年、2282年、2284年、2286年、2288年、2290年、2292年、2294年、2296年、2298年、2300年、2302年、2304年、2306年、2308年、2310年、2312年、2314年、2316年、2318年、2320年、2322年、2324年、2326年、2328年、2330年、2332年、2334年、2336年、2338年、2340年、2342年、2344年、2346年、2348年、2350年、2352年、2354年、2356年、2358年、2360年、2362年、2364年、2366年、2368年、2370年、2372年、2374年、2376年、2378年、2380年、2382年、2384年、2386年、2388年、2390年、2392年、2394年、2396年、2398年、2400年、2402年、2404年、2406年、2408年、2410年、2412年、2414年、2416年、2418年、2420年、2422年、2424年、2426年、2428年、2430年、2432年、2434年、2436年、2438年、2440年、2442年、2444年、2446年、2448年、2450年、2452年、2454年、2456年、2458年、2460年、2462年、2464年、2466年、2468年、2470年、2472年、2474年、2476年、2478年、2480年、2482年、2484年、2486年、2488年、2490年、2492年、2494年、2496年、2498年、2500年、2502年、2504年、2506年、2508年、2510年、2512年、2514年、2516年、2518年、2520年、2522年、2524年、2526年、2528年、2530年、2532年、2534年、2536年、2538年、2540年、2542年、2544年、2546年、2548年、2550年、2552年、2554年、2556年、2558年、2560年、2562年、2564年、2566年、2568年、2570年、2572年、2574年、2576年、2578年、2580年、2582年、2584年、2586年、2588年、2590年、2592年、2594年、2596年、2598年、2600年、2602年、2604年、2606年、2608年、2610年、2612年、2614年、2616年、2618年、2620年、2622年、2624年、2626年、2628年、2630年、2632年、2634年、2636年、2638年、2640年、2642年、2644年、2646年、2648年、2650年、2652年、2654年、2656年、2658年、2660年、2662年、2664年、2666年、2668年、2670年、2672年、2674年、2676年、2678年、2680年、2682年、2684年、2686年、2688年、2690年、2692年、2694年、2696年、2698年、2700年、2702年、2704年、2706年、2708年、2710年、2712年、2714年、2716年、2718年、2720年、2722年、2724年、2726年、2728年、2730年、2732年、2734年、2736年、2738年、2740年、2742年、2744年、2746年、2748年、2750年、2752年、2754年、2756年、2758年、2760年、2762年、2764年、2766年、2768年、2770年、2772年、2774年、2776年、2778年、2780年、2782年、2784年、2786年、2788年、2790年、2792年、2794年、2796年、2798年、2800年、2802年、2804年、2806年、2808年、2810年、2812年、2814年、2816年、2818年、2820年、2822年、2824年、2826年、2828年、2830年、2832年、2834年、2836年、2838年、2840年、2842年、2844年、2846年、2848年、2850年、2852年、2854年、2856年、2858年、2860年、2862年、2864年、2866年、2868年、2870年、2872年、2874年、2876年、2878年、2880年、2882年、2884年、2886年、2888年、2890年、2892年、2894年、2896年、2898年、2900年、2902年、2904年、2906年、2908年、2910年、2912年、2914年、2916年、2918年、2920年、2922年、2924年、2926年、2928年、2930年、2932年、2934年、2936年、2938年、2940年、2942年、2944年、2946年、2948年、2950年、2952年、2954年、2956年、2958年、2960年、2962年、2964年、2966年、2968年、2970年、2972年、2974年、2976年、2978年、2980年、2982年、2984年、2986年、2988年、2990年、2992年、2994年、2996年、2998年、3000年、3002年、3004年、3006年、3008年、3010年、3012年、3014年、3016年、3018年、3020年、3022年、3024年、3026年、3028年、3030年、3032年、3034年、3036年、3038年、3040年、3042年、3044年、3046年、3048年、3050年、3052年、3054年、3056年、3058年、3060年、3062年、3064年、3066年、3068年、3070年、3072年、3074年、3076年、3078年、3080年、3082年、3084年、3086年、3088年、3090年、3092年、3094年、3096年、3098年、3100年、3102年、3104年、3106年、3108年、3110年、3112年、3114年、3116年、3118年、3120年、3122年、3124年、3126年、3128年、3130年、3132年、3134年、3136年、3138年、3140年、3142年、3144年、3146年、3148年、3150年、3152年、3154年、3156年、3158年、3160年、3162年、3164年、3166年、3168年、3170年、3172年、3174年、3176年、3178年、3180年、3182年、3184年、3186年、3188年、3190年、3192年、3194年、3196年、3198年、3200年、3202年、3204年、3206年、3208年、3210年、3212年、3214年、3216年、3218年、3220年、3222年、3224年、3226年、3228年、3230年、3232年、3234年、3236年、3238年、3240年、3242年、3244年、3246年、3248年、3250年、3252年、3254年、3256年、3258年、3260年、3262年、3264年、3266年、3268年、3270年、3272年、3274年、3276年、3278年、3280年、3282年、3284年、3286年、3288年、3290年、3292年、3294年、3296年、3298年、3300年、3302年、3304年、3306年、3308年、3310年、3312年、3314年、3316年、3318年、3320年、3322年、3324年、3326年、3328年、3330年、3332年、3334年、3336年、3338年、3340年、3342年、3344年、3346年、3348年、3350年、3352年、3354年、3356年、3358年、3360年、3362年、3364年、3366年、3368年、3370年、3372年、3374年、3376年、3378年、3380年、3382年、3384年、3386年、3388年、3390年、3392年、3394年、3396年、3398年、3400年、3402年、3404年、3406年、3408年、3410年、3412年、3414年、3416年、3418年、3420年、3422年、3424年、3426年、3428年、3430年、3432年、3434年、3436年、3438年、3440年、3442年、3444年、3446年、3448年、3450年、3452年、3454年、3456年、3458年、3460年、3462年、3464年、3466年、3468年、3470年、3472年、3474年、3476年、3478年、3480年、3482年、3484年、3486年、3488年、3490年、3492年、3494年、3496年、3498年、3500年、3502年、3504年、3506年、3508年、3510年、3512年、3514年、3516年、3518年、3520年、3522年、3524年、3526年、3528年、3530年、3532年、3534年、3536年、3538年、3540年、3542年、3544年、3546年、3548年、3550年、3552年、3554年、3556年、3558年、3560年、3562年、3564年、3566年、3568年、3570年、3572年、3574年、3576年、3578年、3580年、3582年、3584年、3586年、3588年、3590年、3592年、3594年、3596年、3598年、3600年、3602年、3604年、3606年、3608年、3610年、3612年、3614年、3616年、3618年、3620年、3622年、3624年、3626年、3628年、3630年、3632年、3634年、3636年、3638年、3640年、3642年、3644年、3646年、3648年、3650年、3652年、3654年、3656年、3658年、3660年、3662年、3664年、3666年、3668年、3670年、3672年、3674年、3676年、3678年、3680年、3682年、3684年、3686年、3688年、3690年、3692年、3694年、3696年、3698年、3700年、3702年、3704年、3706年、3708年、3710年、3712年、3714年、3716年、3718年、3720年、3722年、3724年、3726年、3728年、3730年、3732年、3734年、3736年、3738年、3740年、3742年、3744年、3746年、3748年、3750年、3752年、3754年、3756年、3758年、3760年、3762年、3764年、3766年、3768年、3770年、3772年、3774年、3776年、3778年、3780年、3782年、3784年、3786年、3788年、3790年、3792年、3794年、3796年、3798年、3800年、3802年、3804年、3806年、3808年、3810年、3812年、3814年、3816年、3818年、3820年、3822年、3824年、3826年、3828年、3830年、3832年、3834年、3836年、3838年、3840年、3842年、3844年、3846年、3848年、3850年、3852年、3854年、3856年、3858年、3860年、3862年、3864年、3866年、3868年、3870年、3872年、3874年、3876年、3878年、3880年、3882年、3884年、3886年、3888年、3890年、3892年、3894年、3896年、3898年、3900年、3902年、3904年、3906年、3908年、3910年、3912年、3914年、3916年、3918年、3920年、3922年、3924年、3926年、3928年、3930年、3932年、3934年、3936年、3938年、3940年、3942年、3944年、3946年、3948年、3950年、3952年、3954年、3956年、3958年、3960年、3962年、3964年、3966年、3968年、3970年、3972年、3974年、3976年、3978年、3980年、3982年、3984年、3986年、3988年、3990年、3992年、3994年、3996年、3998年、4000年、4002年、4004年、4006年、4008年、4010年、4012年、4014年、4016年、4018年、4020年、4022年、4024年、4026年、4028年、4030年、4032年、4034年、4036年、4038年、4040



## つくしつ 筑紫津神社

平安時代の歌謡である催馬樂「難波の海」には「難波の海 漕ぎもて上る 小舟大船 筑紫津までに いま少し上れ 山崎までに」とあり、「筑紫津」までは大船を漕いで遡上することが可能だったようです。筑紫津は高槻市津之江の筑紫津神社の付近と推定され、繼体天皇の頃から大型船の河港であったとも考えられています。



## 宇治川派流・濠川

宇治川の派川が堤防によって宇治川から切り離された宇治川派流と、伏見城の外堀として掘られた濠川は、令和3年に「みなど」を核とした地域活性化の取組施設である「みなどオアシス」に指定されました。琵琶湖疏水の水を受けて豊かに流れる宇治川派流と濠川は、港町伏見の歴史的景観を形成する貴重な水辺空間となっています。



## 淀津遺構

豊臣秀吉が伏見港を整備する以前は、京都における淀川舟運の拠点は淀津でした。平安京の玄関として栄えた淀津の遺構が河川改修工事に伴う遺跡調査で発見されています。



## 三十石船とくらわんか舟

大阪・伏見間を往来した三十石船は、長さ17m、幅2.5m余りの小船で、船頭4人、船客の定員は28人、朝晩2回、伏見と八軒家（大阪）の両方から出発し、下り半日（又は半夜）、上り1日（又は1晩）で到着したといわれています。三十石船が枚方付近にさしかかると、「酒くらわんか餅くらわんか」と近づいた小舟が「くらわんか舟」です。



## 高瀬川

高瀬川は、京都の中心部と伏見を結ぶために、江戸時代初期に京都の豪商、角倉了以・素庵が開削した運河です。大正時代に運河としての役割を終えましたが、運河沿いに材木商が集まつた木屋町などを流れ、京都の繁華街の貴重な水辺として市民に親しまれています。



## 八軒家浜船着場

古代の難波津の場所は諸説ありますが、中世に栄えた淀川河口の渡辺津は、大川（旧淀川）の天満橋と天神橋間にあたるとされています。江戸時代には、八軒家浜として大阪と京都（伏見）を結ぶ三十石船の発着場となりました。平成20年3月には、京阪中之島線建設工事に併せて整備された八軒家浜船着場が開設され、翌年8月には「川の駅はちけんや」が開業しています。



淀川の舟運の歴史は古墳時代に遡り、5世紀には淀川河口に「難波津」が成立しています。近世には、豊臣秀吉による伏見港整備により、淀川舟運は、伏見と大阪を繋いだ三十石船など飛躍的に発達しました。明治時代になると、蒸気船が運航できる水深を確保するため、ヨハネス・デ・レーケの協力のもと水制工が設置され、現在もワンドとして淀川の貴重な環境を形成しています。その後、陸上交通の発達により淀川の舟運は途絶えましたが、近年その役割が見直されています。また、市町村等と河川管理者が連携して行う「かわまちづくり」の計画として、舟運を用いて地域活性化に取り組む「宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり」「伏見地区かわまちづくり」「淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり」「淀川河川敷十三エリアかわまちづくり」が登録されています。

# 川 シリーズ

古代から舟運によって栄えた

# 淀 川

## 伏見港（三栖閘門）

豊臣秀吉によって整備された京都の玄関となった伏見港ですが、大正6年の大洪水で大きな浸水被害を受けた伏見の町を守るため、新たに堤防が築かれ、伏見港の機能確保のために三栖閘門が建設されました。その後、陸上交通の発達により昭和37年に淀川の舟運がなくなり、昭和43年には港の船泊が埋め立てられています。現在は、宇治川の河床が低下しているため、低水護岸が船着場として整備され、周辺地域では賑わい拠点整備等を行なう「伏見地区かわまちづくり」の取り組みが始まっています。



## 旧毛馬閘門

明治18年の大洪水を契機に、明治29年から開始された淀川改良工事で新淀川が開削され、旧淀川の締切堤に洗堰と閘門が設置されました。毛馬閘門は、明治40年8月に竣工した長さ105.7m規模の煉瓦造及びコンクリート造の構造物であり、後の淀川下流改修工事で毛馬第二閘門が設置された後は毛馬第一閘門と呼ばれていました。わが国最初の高水工事であり、初めて大型建設機械を導入して実施された淀川改良工事の代表的遺構として、平成20年に重要文化財に指定されています。

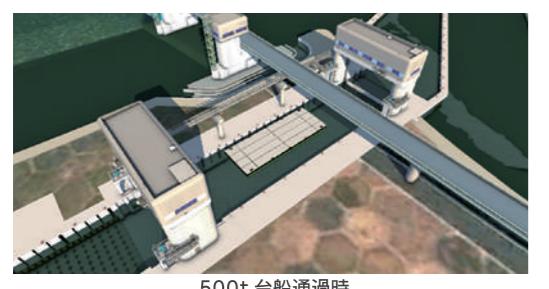
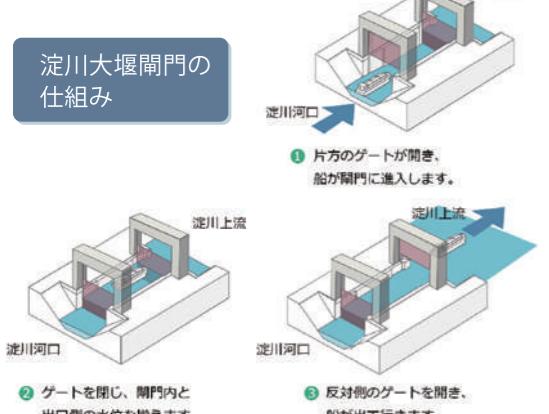


# 淀川ゲートウェイ

## 一淀川大堰閘門一

淀川河口から約10km地点には、水道水の確保や潮止めを目的に淀川大堰（昭和58年完成）が設置されており、上下流最大2m程度の水位差のため船の往来が不可能でした。

令和7年（2025）3月に、災害時の物資運搬や淀川舟運活性化に向けて整備が進められてきた淀川大堰閘門が開通し、淀川河口から京都の伏見まで、一気通貫の航路で結ぶことが可能となりました。淀川大堰閘門等によって整備された淀川の航路は、災害時には陸上交通の代替手段として緊急物資や廃棄物の運搬に活用されるとともに、平常時には、公共工事における大規模な資機材や土砂の運搬に活用されます。



### 淀川大堰閘門の大きさ



### 運用開始とその後の利用

淀川大堰閘門は、大阪・関西万博開催の前月の令和7年（2025）3月16日に運用を開始しました。同日には、淀川舟運活性化協議会が、万博開幕1ヶ月イベントとして「淀川クルーズOSAKA BAY新航路OPEN FESTIVAL」を開催し、同イベントの中で、淀川大堰閘門通航による伏見から大阪湾への航路の開通及び十三船着場の完成を記念したオープニングセレモニーが行われ、初めて公に淀川ゲートウェイが使用されました。なお、淀川大堰閘門整備事業で整備された「淀川ゲートウェイ」の施設名は、淀川舟運活性化協議会の構成員を対象とした公募により決定されたもので、同セレモニーの中で初めて公表されたそうです。



### 「淀川クルーズOSAKA BAY新航路OPEN FESTIVAL」オープニングセレモニーの様子

運用開始後は、沿川自治体が実施する舟運イベントで民間観光船の通航に使用された他、令和7年5月には、韓国国家遺産庁国立環境研究所と市民有志団体「水都大阪を考える会」が連携して企画された朝鮮通信使船の日韓航路再現計画において、「川御座船」の航行に淀川ゲートウェイが使用されました。

また、10月5日には、毛馬から淀川ゲートウェイを通って夢洲（万博会場）まで船を航行する社会実験「淀川ゲートウェイを通じて毛馬から船で万博へ行こう！」が行われました。

# 水の都大阪を支えた淀川舟運

古代難波津から観光船へ

## 古代の淀川舟運



今城塚古墳の石棺のレプリカ



船絵のある円筒埴輪（共に今城塚古墳歴史館）

古墳は、繼体天皇（450？—53）が開拓したと見られる6世紀代には既に外國の使節を迎える港として機能していたと考えられています。淀川を遡った高槻市にある今城塚

平成7年（1995）の阪神・淡路大震災を契機に舟運の役割が見直され、淀川下流では、河口から枚方まで10か所の緊急用船着場が整備されました。また、災害時の利用だけでなく沿川の賑わい創出の付加価値を期待されるようになりました。

平成13年（2001）12月には、大阪府、大阪市、経済界による「水都大阪再生構想」によって、大阪都心部の河川において道頓堀等



法円坂遺跡 高床式倉庫（復元）

1）の陵墓説が有力ですが、出土した円筒埴輪には停泊中の外航船ともみられる船の絵が描かれています。平成10年（1998）には、熊本県宇土市で産出する馬門石（阿蘇溶結凝灰岩、通称・阿蘇ピンク石）の石棺の破片が発見されており、水運で有明海から瀬戸内海を通って淀川を運搬したと考えられています。阿蘇

湖も含めた古代の淀川水系の舟運等でも発見されており、大和川や琵琶湖古墳や滋賀県野洲市の円山古墳植山古墳や奈良県橿原市の円筒埴輪も発見されています。琵琶湖の古墳は奈良県橿原市の円山古墳植山古墳や滋賀県野洲市の円山古墳

現在の淀川の観光船

成20年には八軒家浜船着場が開設されました。また、枚方緊急用船着場に着岸した観光船



これが整備により、一本松海運株式会社および京阪グループの大坂水上バス株式会社は、それぞれ「蘇れ!!淀川の舟運」と「淀川浪漫紀行」という商品名で、大川の八軒家浜船着場から淀川の枚方緊急用船着場をつないだ観光船の不定期運航を開始。平成29年9月からは「淀川浪漫紀行」の定期運航が始まり、淀川舟運復活の節目を迎えました。なお、令和3年には新型コロナウイルスの世界的蔓延を背景に一時運航が中止され、コロナ禍が明けた後は、季節限定運航が再開されています。



さくらでいクルーズ



みなと五六市



## 水の調べを奏でる琴滝

京都縦貫自動車道・丹波ICの近くには、一枚岩の遙か上から十三弦の琴の糸のように流れ落ちる「琴滝」が、水の調べを奏でています。落差43m府内最大級の滝は、春は桜、秋は紅葉と美しく、映画のロケ地に利用されています。滝の上には小滝池と大滝池があり、丹波の有力者・須知氏が築いた城跡には、高さ約3mの石垣が残っています。

大滝池は由良川水系の源の一つですが、淀川水系の支川最上流端と約1.1kmしか離れていません。この辺りに降った雨が山頂を隔て日本海と大阪湾に分かれる境となっています。



## 古くから愛されるしゅうずの水

京丹波町の曾根川沿い、のどかな田園の道に、古くから湧き出る清水があります。その清水は、「ほたるの里」の地元有志により愛され、大切に守られ管理されています。農作業後に冷たい清水を飲んだり、コーヒーを淹れてほっとする、そんな憩いの場となっています。



## 由良川水系と加古川水系をつなぐ水上回廊



水上回廊は、由良川水系と加古川水系をつなぐ重要な水路です。ここでは、由良川が曲がり、加古川へと合流する様子が見られます。

由良川流域の南西には、日本海側と太平洋側に降った雨を分ける境界線である「中央分水界」があります。丹波市氷上町石生は標高95.45mの低地帯となっており、本州の中で一番低い分水界（中央分水嶺最低点）です。このわずか95m～100mの高さの中央分水界

「水分れ」がある細長い低地帯は、『氷上回廊』と呼ばれており、日本海と瀬戸内海を結ぶ一本の道のように由良川水系と加古川水系をつないでいます。氷上回廊は、河川や地理の専門家による監修のもとに設立された展示施設で、体験型のツールを使って、温暖化が進んだ場合の海面上昇について実験模型で学習できます。海面が10m上昇すると加古川の平野

が海底に沈み、50mで福知山市から丹波市市島町あたりが海底に、さらに100mになると瀬戸内海の海水と日本海の海水が丹波市氷上町石生の「水分れ」で合流し、本州を分断する海峡が出現する様子がよくわかります。



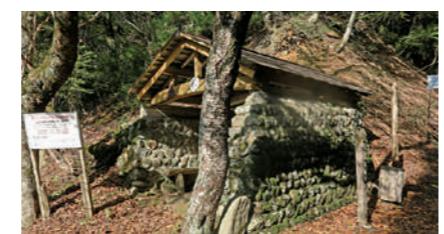
絶滅危惧種 ホトケドジョウ

氷上回廊の低地帯では洪水のたびに河川が混じり、瀬戸内海側と日本海側の魚が出会い、広がっていました。その結果、ホトケドジョウとナガレホトケドジョウ、アブラハヤとタカハヤなど、本来は南北で別々に暮らす近縁種同士が同じ河川で共存する、珍しい水域となっています。丹波市内の加古川水系と由良川水系に生息するホトケドジョウの遺伝子は、水系が分断されているにもかかわらず、出所は全て同じだそうです。



## 佐々里峠の石室

芦生研究林にある佐々里峠は、京都市と南丹市の境に位置し、京都市側に降った雨は淀川水系を通じて太平洋（瀬戸内海）へ、南丹市側に降った雨は由良川水系を通じて日本海へと流れ込むため、ここは中央分水嶺となっています。峠にある石室は、昔も今も旅人の休憩所として京の都をつないでいます。



## 源流三国岳

由良川の源流は、三国岳（京都、滋賀、福井の府県境）です。しかし、由良川の分水界には、他にも三国岳が二つ（京都府綾部市、兵庫県丹波篠山市）あり、また三国山（豊岡市と福知山市の境）もあります。三国山、三国岳など三国…とよばれる山は全国に数多くあります。



化・歴史を感じる「やぶきの里」は「日本の原風景」と呼ばれています。また、上流部の分水嶺や盆地を流れる中流部の分水界では、淀川水系や加古川水系と接しています。今回は、多様な世界をつなぐ由良川の上流から中流域を訪れ、人々の暮らしや営みと、水が織りなす不思議な生態系に触れてきました。

## いつも水のそばにある景観と集落の営み

源流に近い美山の里人は、由良川を「美山川」と呼んでいます。その美山川の緩やかな蛇行に守られた内久保集落の水は、古くから鰐街道を行き交う人々に潤いを与えてきました。現在も、民家や田畠のいたるところに豊かな水が流れています。対岸には、蓮如上人から名を賜り、地元保存会によって景観が維持されている蓮如の滝（落差68m）が流れ落ちています。少し上流の水力発電所は、大正時代の早い時期から各戸への給電と有線放送を行っていたそうです。家々の水管からは清らかな水が溢れ、散歩をする人、水路掃除をする人、農作業をひと休みする人たちと出会い、のどかな集落内の水とともに暮らす情景がうかがえました。



由良川水系由良川は、幹川流路延長146km、流域の面積1,880km<sup>2</sup>の一級河川です。その源は京都・滋賀・福井の府県境の三国岳（標高959m）に発します。山間部を西へ進む本流は、高屋川や上林川などの支川と合わせながら流れ、福知山市で南から土師川と合流し、その後は北上して京都府の若狭湾、日本海に注ぎます。

京都大学芦生研究林のある由良川上流域は、日本海型と太平洋型の気候の移行帯に位置し、豊かな植物相と動物相を形成しています。由良川は、その支流に沿うように人々が集落をつくり、自然と寄り添いながら伝統文化を長く継承してきました。自然と文



## 芦生研究林内の由良川源流

本研究林（約4,200ha）は京都府北東部に位置し、標高は355～959mです。そのうち標高600～800mの範囲が約3分の2を占め、由良川の源流から5次谷までの河川を含んでいます。傾斜30～40度の急峻な地形が多く、斜面に応じた樹木の分布密度にも変化が見られます。急峻な斜面に立つ樹木の根元は、雪の重みも加わり「レ」字型に根曲がりしています。芦生研究林の木々は、こうした自然の厳しさに耐えながら、由良川源流の清澄な川の水を生み出しているのでしょうか。



# 京都の水文化（その14）

京都のシンボル「三条大橋」「四条大橋」

京都産業大学 現代社会学部 教授 鈴木 康久

台風の状況を示すTV中継で、リポーターの「京都からです」の言葉と共によく使われる映像が、「三条大橋」と「四条大橋」である。京都のシンボルと言えば両橋といえる。しかし、三条大橋も四条大橋も多く的人が渡っているのに、誰一人として橋に関心があるようには見えない。これがではないと、両橋を見るためには世界中から観光客が訪れるようになると願い、水資源・環境学会のブックレット『京都・鴨川と別子銅山を歩く』を2024年7月に刊行した。

本号では、著書で紹介している三条大橋と四条大橋の変遷に加えて、架歩く』を2024年7月に刊行した。レット『京都・鴨川と別子銅山を歩く』を2024年7月に刊行した。本号では、著書で紹介している三条大橋と四条大橋の変遷に加えて、架橋の意義についても述べてみたい。

在までの間である。四条橋について、筆者が確認している最も古い記述は、『祇園社記（巻二）』に「永治二年始祇園四条橋為勧進聖沙汰■々」とあり、永治2（142）年の祇園四条橋に関する記述がみられる。他に『百練抄』（鎌倉後期）の仁平4年（1154）年平安期の橋梁は、四条橋（現在の仮橋）から5条から5条間で架設された。吉田神社の神主であつた吉田兼見（1535-1610）の日記『兼見卿記』の天正4（1576）年6月25日条にある「四条橋之普請多く出来也」などからわかる。

期を天正期までとした理由は、かの織田信長も従前にならない天正5（1577）年に家臣の村井貞勝（？-1582）に架橋を命じたことが、吉田神社の神主であつた吉田兼見（1535-1610）の日記『兼見卿記』の天正4（1576）年6月25日条にある「四条橋之普請多く出来也」などからわかる。

この行為によって、四条大橋は長大橋から仮橋に代わり、遊芸、納涼などを楽しむ空間の一部となる。この期間を第2期とした。『都名所図会（巻之二）』（1780年）の「芝居」に、豊臣秀吉が五条橋の南で興行していた芝居を四条河原に移し、その後に中断もあつたが、承応2（1653）年に四条河原の中州で再興され、繩手四条の北に移り、寛文年間（1661-73年）に芝居小屋が建てられたとある。芝居小屋が現在の南座の場所に移転する前の

様相は、静嘉堂文庫の「四条河原遊楽図」（寛永期1624-44年）などに見ることができる。

その後の様相について、『都名所図会（巻之二）』の「四条河原夕涼之体」を見ると、左右両岸から四条河原に降りる仮橋であることがわかる。仮橋であつた第2期の四条橋は鴨川を渡るだけでなく、四条河原の一部として鴨川の流れを身近で楽しむ役割も担つていたともいえよう。

四条大橋が再び登場するのは、安政4（1857）年のことである。この

木製の長大橋（橋長53間、幅員3間）は、下吉宿老、祇園神輿轎町氏子、祇園町などの人々の願い出によって架設された。

この橋以降を第3期とする。民衆によつて架橋されたが、痛みが激しくなり、オランダ人技術者のホーダルが明治7（1874）年に橋長が50間、幅員4間の鉄製の橋梁を架橋した。西洋のスタイルがいち早く導入されており、文明開化の象徴であつたともいえよう。桁は輸入されたが、橋の高欄には阿弥陀寺や正法寺の梵鐘などを溶かし使われてい

る。鉄橋はその姿から「くろがね橋」と呼ばれ、評判が悪かつた。その理由は、大人1錢、車馬2錢の橋銭である。この通行料の徴取は明治14（1881）年まで続いた。

この姿が大きく変わるのが大正2（1913）年である。渡り初めの記念絵葉書を見ると「大正二年三月二十三日渡初式舉行之京都四條大

橋」とある。橋面には電車、中央には式典に相応しく提灯が架けられて

いる。美しいアーチ橋で、橋脚のス

リットにも大正ロマンを感じる。構

造は東京帝国大学教授の柴田畦作氏

の設計で、直線的（平面的）な装飾

なられた方も多いのではないだろうか。絵団から幾つかの事がわかる。まず目に入る鴨川右岸の赤く塗られた鳥居から祇園社への参道としての橋梁と判断できる。鴨川に架かることから、幅員は人物との比較から5m程度、高欄には擬宝珠がつけられた。四条橋も祇園社（八坂神社）に参拝するために、神仏習合であつた祇園社の僧侶等によつて架設されたため「祇園橋」とも呼ばれていた。

四条大橋は、その利用形態と構造から3期に区分できると考えてい

る。第1期は平安期から天正年間（1573-92年）までとし、第2期は中州と岸の間に板を置いただけの仮橋であった江戸期。第3期は祇園社の氏子などによつて長大橋が架橋された安政4（1857）年から現

在までの間である。

四条橋について、筆者が確認して

いる最も古い記述は、『祇園社記（巻二）』に「永治二年始祇園四条橋為勧進聖沙汰■々」とあり、永治2（142）年の祇園四条橋に関する記述がみられる。他に『百練抄』（鎌倉後期）の仁平4年（1154）年平安期の橋梁は、四条橋（現在の

仮橋）から5条から5条間で架設された。吉田神社の神主であつた吉田兼見（1535-1610）の日記『兼見卿記』の天正4（1576）年6月25日条にある「四条橋之普請多く出来也」などからわかる。

この行為によって、四条大橋は長大橋から仮橋に代わり、遊芸、納涼などを楽しむ空間の一部となる。この期間を第2期とした。『都名所

図会（巻之二）』（1780年）の「芝居」に、豊臣秀吉が五条橋の南で興

行していた芝居を四条河原に移し、その後に中断もあつたが、承応2（1653）年に四条河原の中州で再興され、繩手四条の北に移り、寛文年間（1661-73年）に芝居小屋が建てられたとある。芝居小屋が現在の南座の場所に移転する前の

様相は、静嘉堂文庫の「四条河原遊

楽図」（寛永期1624-44年）などに見ることができる。

その後の様相について、『都名所

図会（巻之二）』の「四条河原夕涼之体」を見ると、左右両岸から四条河原に降りる仮橋であることがわかる。仮橋であつた第2期の四条橋は鴨川を渡るだけでなく、四条河原の一部として鴨川の流れを身近で楽しむ役割も担つていたともいえよう。

四条大橋が再び登場するのは、安政4（1857）年のことである。この

木製の長大橋（橋長53間、幅員3間）は、下吉宿老、祇園神輿轎町氏子、祇園町などの人々の願い出によって架設された。

この橋以降を第3期とする。民衆によつて架橋されたが、痛みが激しくなり、オランダ人技術者のホーダルが明治7（1874）年に橋長が50間、幅員4間の鉄製の橋梁を架橋した。西洋のスタイルがいち早く導入されており、文明開化の象徴であつたともいえよう。桁は輸入されたが、橋の高欄には阿弥陀寺や正法寺の梵鐘などを溶かし使われてい

る。鉄橋はその姿から「くろがね橋」と呼ばれ、評判が悪かつた。その理由は、大人1錢、車馬2錢の橋銭である。この通行料の徴取は明治14（1881）年まで続いた。

この姿が大きく変わるのが大正2（1913）年である。渡り初めの記念絵葉書を見ると「大正二年三月二十三日渡初式舉行之京都四條大

橋」とある。橋面には電車、中央には式典に相応しく提灯が架けられて

いる。美しいアーチ橋で、橋脚のス

リットにも大正ロマンを感じる。構

造は東京帝国大学教授の柴田畦作氏

の設計で、直線的（平面的）な装飾

なられた方も多いのではないだろ

うか。絵団から幾つかの事がわかる。まず目に入る鴨川右岸の赤く塗られた鳥居から祇園社への参道としての橋梁と判断できる。鴨川に架かることから、幅員は人物との比較から5m程度、高欄には擬宝珠がつけられた。四条橋も祇園社（八坂神社）に参拝するために、神仏習合であつた祇園社の僧侶等によつて架設されたため「祇園橋」とも呼ばれていた。

四条大橋は、その利用形態と構造から3期に区分できると考えてい

る。第1期は平安期から天正年間（1573-92年）までとし、第2期は中州と岸の間に板を置いただけの仮橋であった江戸期。第3期は祇園

社の氏子などによつて長大橋が架橋された安政4（1857）年から現

在までの間である。

四条橋について、筆者が確認して

いる最も古い記述は、『祇園社記（巻二）』に「永治二年始祇園四条橋為勧進聖沙汰■々」とあり、永治2（142）年の祇園四条橋に関する記述がみられる。他に『百練抄』（鎌倉後期）の仁平4年（1154）年平安期の橋梁は、四条橋（現在の

仮橋）から5条から5条間で架設された。吉田神社の神主であつた吉田兼見（1535-1610）の日記『兼見卿記』の天正4（1576）年6月25日条にある「四条橋之普請多く出来也」などからわかる。

この行為によって、四条大橋は長大橋から仮橋に代わり、遊芸、納涼などを楽しむ空間の一部となる。この期間を第2期とした。『都名所

図会（巻之二）』（1780年）の「芝居」に、豊臣秀吉が五条橋の南で興

行していた芝居を四条河原に移し、その後に中断もあつたが、承応2（1653）年に四条河原の中州で再興され、繩手四条の北に移り、寛文年間（1661-73年）に芝居小屋が建てられたとある。芝居小屋が現在の南座の場所に移転する前の

様相は、静嘉堂文庫の「四条河原遊

楽図」（寛永期1624-44年）などに見ことができる。

その後の様相について、『都名所

図会（巻之二）』の「四条河原夕涼之体」を見ると、左右両岸から四条河原に降りる仮橋であることがわかる。仮橋であつた第2期の四条橋は鴨川を渡るだけでなく、四条河原の一部として鴨川の流れを身近で楽しむ役割も担つていたともいえよう。

四条大橋が再び登場するのは、安政4（1857）年のことである。この

木製の長大橋（橋長53間、幅員3間）は、下吉宿老、祇園神輿轎町氏子、祇園町などの人々の願い出によって架設された。

この橋以降を第3期とする。民衆によつて架橋されたが、痛みが激しくなり、オランダ人技術者のホーダルが明治7（1874）年に橋長が50間、幅員4間の鉄製の橋梁を架橋した。西洋のスタイルがいち早く導入されており、文明開化の象徴であつたともいえよう。桁は輸入されたが、橋の高欄には阿弥陀寺や正法寺の梵鐘などを溶かし使われてい

る。鉄橋はその姿から「くろがね橋」と呼ばれ、評判が悪かつた。その理由は、大人1錢、車馬2錢の橋銭である。この通行料の徴取は明治14（1881）年まで続いた。

この姿が大きく変わるのが大正2（1913）年である。渡り初めの記念絵葉書を見ると「大正二年三月二十三日渡初式舉行之京都四條大

橋」とある。橋面には電車、中央には式典に相応しく提灯が架けられて

いる。美しいアーチ橋で、橋脚のス

リットにも大正ロマンを感じる。構

造は東京帝国大学教授の柴田畦作氏

の設計で、直線的（平面的）な装飾

なられた方も多いのではないだ

ろうか。絵団から幾つかの事がわかる。まず目に入る鴨川右岸の赤く塗られた鳥居から祇園社への参道としての橋梁と判断できる。鴨川に架かることから、幅員は人物との比較から5m程度、高欄には擬宝珠がつけられた。四条橋も祇園社（八坂神社）に参拝するために、神仏習合であつた祇園社の僧侶等によつて架設されたため「祇園橋」とも呼ばれていた。

四条大橋は、その利用形態と構造から3期に区分できると考えてい

る。第1期は平安期から天正年間（1573-92年）までとし、第2期は中州と岸の間に板を置いただけの仮橋であった江戸期。第3期は祇園

社の氏子などによつて長大橋が架橋された安政4（1857）年から現

在までの間である。

四条橋について、筆者が確認して

いる最も古い記述は、『祇園社記（巻二）』に「永治二年始祇園四条橋為勧進聖沙汰■々」とあり、永治2（142）年の祇園四条橋に関する記述がみられる。他に『百練抄』（鎌倉後期）の仁平4年（1154）年平安期の橋梁は、四条橋（現在の

仮橋）から5条から5条間で架設された。吉田神社の神主であつた吉田兼見（1535-1610）の日記『兼見卿記』の天正4（1576）年6月25日条にある「四条橋之普請多く出来也」などからわかる。

この行為によって、四条大橋は長大橋から仮橋に代わり、遊芸、納涼などを楽しむ空間の一部となる。この期間を第2期とした。『都名所

図会（巻之二）』（1780年）の「芝居」に、豊臣秀吉が五条橋の南で興

行していた芝居を四条河原に移し、その後に中断もあつたが、承応2（1653）年に四条河原の中州で再興され、繩手四条の北に移り、寛文年間（1661-73年）に芝居小屋が建てられたとある。芝居小屋が現在の南座の場所に移転する前の

様相は、静嘉堂文庫の「四条河原遊

楽図」（寛永期1624-44年）などに見

ことができる。

その後の様相について、『都名所

図会（巻之二）』の「四条河原夕涼之体」を見ると、左右両岸から四条河原に降りる仮橋であることがわかる。仮橋であつた第2期の四条橋は鴨川を渡るだけでなく、四条河原の一部として鴨川の流れを身近で楽しむ役割も担つていたともいえよう。

四条大橋が再び登場するのは、安政4（1857）年のことである。この

木製の長大橋（橋長53間、幅員3間）は、下吉宿老、祇園神輿轎町氏子、祇園町などの人々の願い出によって架設された。

この橋以降を第3期とする。民衆によつて架橋されたが、痛みが激しくなり、オランダ人技術者のホーダルが明治7（1874）年に橋長が50間、幅員4間の鉄製の橋梁を架橋した。西洋のスタイルがいち早く導入されており、文明開化の象徴であつたともいえよう。桁は輸入されたが、橋の高欄には阿弥陀寺や正法寺の梵鐘などを溶かし使われてい

る。鉄橋はその姿から「くろがね橋」と呼ばれ、評判が悪かつた。その理由は、大人1錢、車馬2錢の橋銭である。この通行料の徴取は明治14（1881）年まで続いた。

</div

左岸上流端の擬宝珠には上記の文字に加えて「升本直一」（人物の詳細不明）の文字が彫られている。他の 8 個は上記の文面ではあるが、刻まれた字体や「洛陽」を「雒陽」、「造之」を「造焉」などに違ひが見られる。これらの相違は、造られた時代が異なるためと推察している。その理由は、五条大橋の最も古い正保 2 年（1645）の擬宝珠に「雒陽五条石橋」と刻まれており、三条大橋に



大正2年に架橋された四条大橋（繪葉書）

し、流れてきた木材などでアーチ部分が閉塞され越流することで被害が広まった。このことを受けて河積断面を広げるために昭和17（1942）年に連続非合成プレートガーダー橋に架け替えられた。驚いたことに、橋台の上流側に大正ロマンのスリットを見る事ができる。

昭和40（1965）年の改修（橋長65m、幅員25m）に際して、全国で初めて高欄のデザイン公募を行い、現在の青銅の手すりを持つ線形の美しい高欄が採用された。これまで述べてきたように、勧進橋で始まつた四条大橋は、高欄デザインの公募などに見られるように庶民に支えられてきた橋梁といえよう。

庶民の橋であった四条大橋と対比できるのが三条大橋である。三条大橋は時の為政者であった豊臣秀吉（1537-98）の命により、五奉行の一人である増田長盛（1545-1615）が天正18（1590）年に架橋した。天正以前の記録をみると、室町前期の公家である広橋兼宣（1366-1429）の日



左岸側の橋台はコンクリートアーチ橋の橋脚をそのまま使っている。この橋台の上流側に大正ロマンのスリットを見る事ができる。



### 擬宝珠に刻まれた文



### 石柱のモニュメント（絵葉書）

孝吉がデザインしている。大正2年  
にコンクリートアーチ橋に架け替え  
られた理由は、京都三大事業の一つ  
道路拡張と市営電気軌道敷設事業に  
ある。同様の理由で架設された七条  
大橋（土木学会選奨土木遺産）は、  
四条大橋と同じ形状のアーチ橋で当  
時の姿を見ることができる。

当時、最新の技術で架橋された四  
条大橋は昭和10（1935）年の京  
都大洪水でも流失はなかつた。しか

で述べてきたように、勧進橋で始  
まつた四条大橋は、高欄デザインの  
公募などに見られるように庶民に支  
えられてきた橋梁といえよう。  
庶民の橋であつた四条大橋と対比  
できるのが三条大橋である。三条大  
橋は時の為政者であつた豊臣秀吉  
(1537-1598) の命により、五  
奉行の一人である増田長盛(154  
5-1615) が天正18(1590)  
年に架橋した。天正以前の記録を  
みると、室町前期の公家である広  
橋兼宣(1366-1429) の日

左岸側の橋台はコンクリートアーチの橋脚をそのまま使っている。この橋台の上流側に大止ロマンのスリットを見る事ができる。

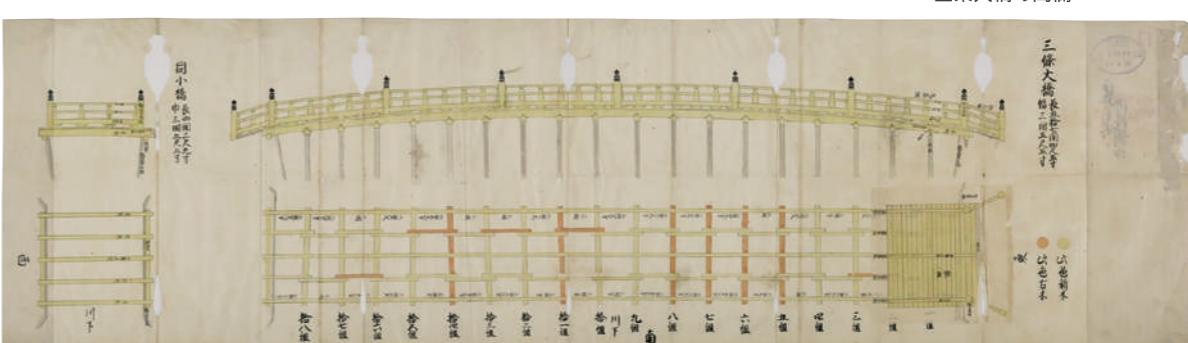


## 四条大橋の高欄

## 歌川広重が描いた「京師（三条大橋）」

なつた三条大橋の周辺では、市民が建立した「駅伝発祥の地」「花の回廊竣工碑」「歌碑」などの石碑（モニュメント）も楽しむことができる。

三条大橋は歌川広重（1797—1858）が東海道五十三次として、「京師（三条大橋）」を描いているよう、秀吉が街道整備を重視する中で架橋されたと考えるのが素直である。そうは思いつつも、筆者はもう一つの位置づけがあつたと考へて、いる。それは、京都の町衆に対して、閑白としての力を示したかったのでないだろうか。そう考へる理由は、祇園社の参道として平安朝から挑



三条土橋小橋繪図 [中井家文書] 京都大學貴重資料二二九九二四

山期までの間、民衆によつて架橋されて続けていた四条橋が途絶えたことにある。

興味深い事に、祇園社の氏子の力で架橋された第3期の四条大橋もわずか17年で、明治政府（京都府）が文明開化を示すがごとく、西洋風の鉄製の橋梁に付け替えている。さらに近代化が進むと、当時の最新の技術であつた鉄筋コンクリート製のアーチ橋へと変わる。利用者の多く、誰もが目にする橋梁は、権力の象徴として活用しやすいのかもしれない。



## 「水の聖地・三条大橋」を説明する鈴木ゼミ生

は、これらのことなどを踏まえて、水を大切に思う心の象徴として、高欄等が美しくなつた三条大橋を京都の「水の聖地」として認定している。これまでに、鈴木ゼミは「鴨川デルタ」「錦の水」を認定しており、これらの地を世界中から「水の聖地巡礼」に訪れるようになることを願つてゐる。







# みんなの水辺

## 川は、誰にでも開かれた舞台 ～名張川から広がる、自然との出会いと学び～

NPO法人 地域と自然 代表  
よし笛アーティスト天葦奏人 ちょいまる

日本国名を「豊葦原水穂の国」と  
表現しています。「豊葦原」は豊かな  
ヨシ原、「水穂」は稻、つまりお米のこと。  
葦と稻は日本の象徴であることが示されています。

なかにし たかお  
中西 崇雄

名張川は、木津川の上流域に位置する清らかな流れの川です。私たち

NPO法人「地域と自然」は、この川を拠点に、2004年から「名張クリーン大作戦」を主導しながら、20年以上にわたり自然の素晴らしさを伝える活動を続けてきました。名張川は、誰もが気軽に近づける水边であり、自然との出会いの舞台として、これ以上ない環境です。



よし笛を演奏する天葦奏人 ちょいまると名張川

名張川は、木津川の上流域に位置する清らかな流れの川です。私たち季節ごとに表情を変える樹木、さえた野鳥の声、そして水中を泳ぐ魚や水辺の昆虫たち。そんな命の気配に耳を澄ませ、目を凝らすだけで、自然の奥深さに触れることができます。たとえば「この草は食べられるんだ」と気づいた瞬間、自然との距離がぐっと縮まる。知ることが、楽しさを深める鍵なのです。

その思いから、これまでにない図鑑の出版に挑戦しました。草花・樹木・水生昆虫・野鳥という、川辺で出会える自然の要素を一冊にまとめた、軽量でコンパクトな図鑑です。手に取りやすく、持ち歩きやすいこの図鑑は、川辺の散策をより豊かなものにしてくれます。

オリジナルグッズ事業では、自然を身近に感じられる雑貨に力を入れています。野鳥図鑑をモチーフにしたTシャツやクリアファイル、忍者が自然から学んだ技を図案化したTシャツ、ポストカードなど、日常の中に自然への入り口をつくる工夫を凝らしています。

### 3 ナマズ水田の取り組み

販売・教室・演奏事業を展開しています。よし笛の音楽は、都会においても自然界の搖らぎを感じ、ストレス軽減につながります。長さ25cmの小さなよし笛から奏でられる迫力ある、心に染み渡る生演奏は、特に圧巻で「演奏地カード」は、全部で9種類に達し、淀川三川の流域を制覇。上下流の交流にもつながっています。

2024年には、フクロウの鳴き声が響く里山とナマズ水田に隣接する名張市黒田の田舎づくり古民家に拠点を移し、2025年からは行政機関・民間企業・農業者と連携し、川から田んぼへ魚の道をつくる活動を開始しました。名張川から支川を経て「ちょいまるナマズ水田」まで、延長500mの区間に数種類の魚道を設置。全国的に珍しい多数のナマズの遡上を保全・復元する取り組みです。

ナマズは川魚の王様、大きな体は目視しやすく、象徴種として最適です。初夏にはナマズ水田で産卵が行わ、多数の赤ちゃんナマズが誕生



演奏地カード

名張川では、音楽をテーマにしたイベントも開催しています。よし笛の演奏を中心、川ヨガ、川踊り（ダンス）など、自然を五感で感じ、表現する場を提供しています。今後は、よし笛とリコーダーなど、さまざまな楽器との共演によって、ジャンルや世代を越えた音の交流を計画しています。



なまず魚道スタート地点付近で小学生と



なまず水田

### 4 自然とのつながりを活かした研修

2024年には、地元農家の方々のご協力のもと、豊かな実りを収穫。川と田んぼ、人と魚がつながる風景が、ここ名張川に広がっています。こうした取り組みは、ネイチャーポジティブの理念と深く響き合っています。自然を守るだけでなく、回復させ、より豊かな生態系を次世代へとつなぐことをを目指しています。

名張川での魚道整備やナマズ水田の取り組み、よし笛による音風景の記録、図鑑や雑貨を通じた自然との接点づくりは、まさにその実践です。

2008年より、よし笛事業に取り組み、2013年には「ちょいまるインターナショナル」を立ち上げて、音楽出版事業を本格化。現在では、木津川流域のセイタカヨシの茎を使って「ちょいまる式よし笛」の製作・

藁は、日本神話にも登場する、日本が古来より大切にしてきた植物です。『古事記』『日本書紀』では、日本の国名を「豊葦原水穂の国」と表現しています。「豊葦原」は豊かなヨシ原、「水穂」は稻、つまりお米のこと。葦と稻は日本の象徴であることが示されています。

### 2 よし笛による音の交流

藁は、日本神話にも登場する、日本が古来より大切にしてきた植物です。『古事記』『日本書紀』では、日本の国名を「豊葦原水穂の国」と表現しています。「豊葦原」は豊かなヨシ原、「水穂」は稻、つまりお米のこと。葦と稻は日本の象徴であることが示されています。



よし笛演奏

藁は、日本神話にも登場する、日本が古来より大切にしてきた植物です。『古事記』『日本書紀』では、日本の国名を「豊葦原水穂の国」と表現しています。「豊葦原」は豊かなヨシ原、「水穂」は稻、つまりお米のこと。葦と稻は日本の象徴であることが示されています。



環境トークショーの様子

さあ、川へ出かけましょう。そこには、まだ知らない自然との出会いが待っています。そしてその出会いが、私たち自身の未来を育ててくれ



## interview

## 流域治水探訪

近畿水管・国土保全研究会 会員 梅田 和男



特定都市河川流域におけるハード・ソフト対策のイメージ



## 新シリーズ「流域治水探訪」を始めます！

今回から新シリーズ「流域治水探訪」です。近年、水害が多発する中で、「流域治水」という言葉を見聞きされることもあると思います。現在、この「流域治水」は全国の河川流域において実施されていますが、どのような目標に向かって進められているのでしょうか。また、そこで

はどのような事業や活動が行われ、どのような人々が携わっているのでしょうか。こうした実情を紹介するため、シリーズ名には「物事の実情や真相を探るために現場を訪れる」という意味を持つ「探訪」を用いました。近畿管内で進められている流域治水について、その全体像や具体的な取り組みなどを、一般の方にもわかりやすくお伝えしていきたいと思います。

初回は、近畿地方整備局において管内の流域治水を推進されている流域治水推進室室長谷口昭一さんにお話を伺いました。

プロジェクト」と呼ばれる計画が令和3（2021）年3月に策定・公表されています。また同年11月には、流域治水を本格的に実践するための流域治水関連法が全面施行されました。

流域治水の施策は、関係省庁、地方公共団体、民間企業、NPO、地域住民など、多くの関係者が協力して実施することで効果を発揮します。流域治水推進室は、様々な関係者との連携調整を密にし、取り組みを円滑に推進するため、河川部局とまちづくり部局を含む新たな組織として整備局に設置されました。

流域治水推進室は、様々な関係者との連携調整を密にし、取り組みを円滑に推進するため、河川部局とまちづくり部局を含む新たな組織として整備局に設置されました。

流域治水は、令和2（2020）年7月の社会資本整備審議会答申「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について」に基づいて実施されています。

本答申では、気候変動の影響や人口減少・少子高齢化が進む社会の動向等を踏まえ、これからの水災害対策として①気候変動の影響を治水計画等に反映し②あらゆる場所に取り組みを進めています。この仕組みでは、流域治水対策が必要な河川を「特定都市河川」に指定し、関係機関が共同で概ね20～30年の期間にわたらる「流域水害対策計画」を策定します。計画に基づき、河川改修や下水道の雨水対策が計画的・集中的に実施されるほか、浸水拡大の抑制に効果があると認められる土地を「貯留機能保全区域」として指定するなど、さまざまな施策が進められています。

流域治水は河川・下水道管理者による取り組み、市町村のまちづくりの取り組みによる避難体制整備など、流域内のあらゆる関係者の協働により進められるものです。そのため、流域治水に参加する必要性やメリットを明確にし、流域治水への協力の輪を広げていきたいと思います。

具体的にはどのような対策が実施されるのですか。

対策は大きく分けて、次の3つがあります。

流域治水は、令和2（2020）年7月の社会資本整備審議会答申「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について」に基づいて実施されています。

本答申では、気候変動の影響や人口減少・少子高齢化が進む社会の動向等を踏まえ、これからの水災害対策として①気候変動の影響を治水計画等に反映し②あらゆる場所に取り組みを進めています。この仕組みでは、流域治水対策が必要な河川を「特定都市河川」に指定し、関係機関が共同で概ね20～30年の期間にわたらる「流域水害対策計画」を策定します。計画に基づき、河川改修や下水道の雨水対策が計画的・集中的に実施されるほか、浸水拡大の抑制に効果があると認められる土地を「貯留機能保全区域」として指定するなど、さまざまな施策が進められています。

流域治水は河川・下水道管理者による取り組み、市町村のまちづくりの取り組みによる避難体制整備など、流域内のあらゆる関係者の協働により進められるものです。そのため、流域治水に参加する必要性やメリットを明確にし、流域治水への協力の輪を広げていきたいと思います。

流域治水についてどのように考え方ですか。

流域治水は、令和2（2020）年7月の社会資本整備審議会答申「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について」に基づいて実施されています。

本答申では、気候変動の影響や人口減少・少子高齢化が進む社会の動向等を踏まえ、これからの水災害対策として①気候変動の影響を治水計画等に反映し②あらゆる場所に取り組みを進めています。この仕組みでは、流域治水対策が必要な河川を「特定都市河川」に指定し、関係機関が共同で概ね20～30年の期間にわたらる「流域水害対策計画」を策定します。計画に基づき、河川改修や下水道の雨水対策が計画的・集中的に実施されるほか、浸水拡大の抑制に効果があると認められる土地を「貯留機能保全区域」として指定するなど、さまざまな施策が進められています。

流域治水は河川・下水道管理者による取り組み、市町村のまちづくりの取り組みによる避難体制整備など、流域内のあらゆる関係者の協働により進められるものです。そのため、流域治水に参加する必要性やメリットを明確にし、流域治水への協力の輪を広げていきたいと思います。

流域治水についてどのように考え方ですか。

流域治水は、令和2（2020）年7月の社会資本整備審議会答申「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について」に基づいて実施されています。

本答申では、気候変動の影響や人口減少・少子高齢化が進む社会の動向等を踏まえ、これからの水災害対策として①気候変動の影響を治水計画等に反映し②あらゆる場所に取り組みを進めています。この仕組みでは、流域治水対策が必要な河川を「特定都市河川」に指定し、関係機関が共同で概ね20～30年の期間にわたらる「流域水害対策計画」を策定します。計画に基づき、河川改修や下水道の雨水対策が計画的・集中的に実施されるほか、浸水拡大の抑制に効果があると認められる土地を「貯留機能保全区域」として指定するなど、さまざまな施策が進められています。

流域治水は河川・下水道管理者による取り組み、市町村のまちづくりの取り組みによる避難体制整備など、流域内のあらゆる関係者の協働により進められるものです。そのため、流域治水に参加する必要性やメリットを明確にし、流域治水への協力の輪を広げていきたいと思います。

流域治水についてどのように考え方ですか。

流域治水は、令和2（2020）年7月の社会資本整備審議会答申「気候変動を踏まえた水災害対策のあり方について」に基づいて実施されています。

流域治水は河川・下水道管理者による取り組み、市町村のまちづくりの取り組みによる避難体制整備など、流域内のあらゆる関係者の協働により進められるものです。そのため、流域治水に参加する必要性やメリットを明確にし、流域治水への協力の輪を広げていきたいと思います。



すみずみで守る、を主流に。  
どこよりもつよい流域治水とともに

大和川流域治水ロゴ

流域治水推進についてメセージをお願いします。

